

海面処分場に関する技術開発

—信頼性の高い海面処分場を目指して—

鵜飼 亮行¹⁾

Technological Development of Waste Disposal Landfill in Coastal Areas

Akiyuki Ukai¹⁾

■ 要 旨 ■

環境に対する意識の高まりとともに、新たな廃棄物処分場の整備が難しくなっている。特に都市部では、陸上処分場の確保が難しくなっているため、大規模な処分容量を確保でき、また、生活環境に与えるリスクが小さい海面処分場への期待が高まっている。一方、1998年に廃棄物処分場の構造・維持管理・廃止の技術基準に係わる省令が改正され、より信頼性の高い廃棄物処分場が求められるようになった。

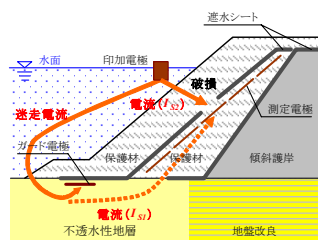
ここでは、海面処分場の特徴を述べるとともに、信頼性の高い海面処分場を目指して進めている以下の3つの技術開発の概要についてまとめた。

- ① 遮水技術(クレイガード工法)：遮水工の変形に追従可能な浚渫粘土を活用した土質系遮水材料
- ② 漏水検知システム：海面処分場への適用が困難とされていた遮水シートへの適用可能なシステム
- ③ 埋立工法：長期化が懸念される海面処分場の廃棄物の安定化を促進する溶脱・分級埋立工法

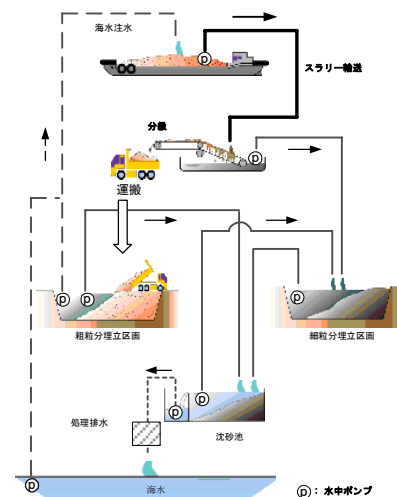
なお、本稿は、『環境浄化技術』2006年5月号、特集：最近の最終処分場に掲載された内容を、年報のために再編集したものである。



変形追従性遮水材料



遮水シートの漏水検知システム



廃棄物の安定化を促進する埋立工法

1) 技術研究所